

大桑教育文化振興財団理事長賞



税の大切さ

高野町立高野山中学校 二年 石堂 優也

税というものは、日常生活の中でも身近な存在だ。税とはどのようなものがあるかと、聞かれた時、消費税という言葉が思い浮かびやすいだろう。しかし、税は、消費税以外にもたくさん種類があるのだ。例えば、収入から経費などを引く、所得税。住んでいる都道府県、市区町村に納める、住民税などがある。それら以外にも税が日本にはあるのだ。

だが、なぜこんなにもたくさん税があるのだろうか。その答えは、税がない場合を考えると明確になってくる。

では、税がないとどうなってしまうのだろうか。公共施設のほとんどが税金によって設けられている。なので、税がないと、警察などに助けってもらう時は、お金を払わないといけなくなる。そして、学校で使う教科書も税金で賄われているので、これも税がないとまともに何事も学習することができない。

これらのことから税がなくなると、いろんな事ができなくなってしまう。なので、税は必要なのだ。

子どもの時は、あまり税を払わない。でも、大人になると多くの税を払わないといけなくなる。みんながみんな税を良いと思っているとは限らない。日本に税がある以上税を受け入れなければならぬと僕は思う。受け入れるには、やはり税の大切さを改めて知ることが一番だと思う。僕も税の大切さを知る前は、なぜ消費税を払うのかと思っていた。だが、税について知ることによって、自分の私生活や、学校生活も税によって成り立っていると気づかされたので、税の大切さを知ることと改めて知ること大切だと思った。

これからも僕たちは税と向き合っていく。税を払うことで新しい設備や施設を増やすことができ、住みやすい日本になっていくと思う。なので僕は、少しでも多くの人に税の重要さを認識して欲しいし、税を払うことに関して当たり前だと思っただけだと思わないで欲しいと思う。僕も税の大切さを忘れずに生きていきたい。